

美術は我が感情を動かしたるもの、形跡を止むるものなり。

美術は無形の思想を有形に轉稱するの術なり。

美術は才能の産子あり。

美術は性理學的のものなり、心理學的に反對するものなり。

△佛人は性理的に基き美術を大分して眼界美術耳界美術の二とせり、一は光線を借りて目より入り全體一塊となりて卒然一度に眼に投じ、以て人を感動せしむるものなり。一は聲音を借りて耳に入り、續々鼓動して次第に耳を襲ひ、以て人を感動せしむるものなり。佛國に於て通常單に美術と稱するものは眼界美術を指すなり。

△眼界美術を別つて二種とす、一は傳神術、一は壯嚴術なり。

傳神術は感情の發露なり、思想の表出なり、壯嚴術は觀美の調理なり、壯麗の配合なり、即ち繪畫の設色濃淡彫刻の容貌骨格建築の長短曲直等の類なり、夫の宮殿樓閣の宏壯偉麗、觀るものをして悚然感動を起こさしむるものは即ち建築の壯嚴術なり  
△應用美術の工藝に益あるは、主として壯嚴術の澤に溶するが爲めなり。壯嚴術の工藝に於けるは、猶ほ理化學の實業に於けるが如く、壯嚴術を捨て、理論に奔りたる美學は、恰も肉體を捨て、人間を存せんと欲するが如きなり。

△壯嚴術は美術の實體なり、傳神術は美術の精神なり、二つのもの一を缺て完全なる活美術たること能はざるなり、故に眞寫に自在に壯嚴術に長じたる上にあらざれば、傳神術を究めんと欲すと雖も得て能くすべからず。

▼以上はその大要なり、猶林氏の説には他に有益なるものあれば他日諸君に御紹介申上べし。

#### 新奇は美にあらず

想ひ起す、予若うして伊太利繪畫の偉觀を耳にするや、想像すらく、大畫は必ず大異常のものなるべし、色彩形状の配合は人を驚かし、眞珠黄金の未開的裝飾は、小學兒童が軍旗軍戟に於けるが如き好奇心を興ふべし、見聞するものは未だ曾て知らざりしものなるべしと、然るに後年羅馬にゆきて親しく其繪畫を觀るを得るや、予は天才が空想徒飾の快樂を初心者に委して、自己は徑ちに單一至眞の境に透徹せるを認めぬ。凡ての繪畫は予を眩ぜしめずして予を親ましめたりき。要するに大畫幅の單純なるは、尙大事業の單純なるが如きなり。(抱月氏舊稿)

○藝術は不羈自由の心胸よりして滋養品を吸收して成長す(シ  
ルレル)

○其工によつて工人を知れ(ラ、フォンテーン)

○技術は長し生命は短かし、判斷は六づかし機會は失ひ易し

(ゲーテ)

○正直に美術に奉仕するものは必らず美術より報酬を受くるものなり(失名)

○熱心はタトエ極端に奔りたるにもせよ甚だ尊ぶべき大なるものなり(ホンポルト)